

令和6年度（2024年度）自己評価表

日本工学院八王子専門学校

1. 学校の教育目標

本校は、社会の要求に即応した工科技術専門課程、情報科学専門課程、芸術専門課程、医療専門課程を設け、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」というミッションのもと、「建学の精神」「教育方針」「教育目的」の三つを掲げ技術者の育成に取り組んでいる。2007年度より、それまでの長い歴史の中で培ってきた「総合性」を強化しつつ、各分野における「専門性」を追求する教育環境を実現するために、学科を再編成したカレッジ制を導入し、分野ごとに教育内容を常に見直し、改善しながら、時代の求める真のスペシャリストを育成している。

現在、クリエイターズカレッジ、デザインカレッジ、ミュージックカレッジ、ITカレッジ、テクノロジーカレッジ、スポーツ・医療カレッジの6つのカレッジを設置している。

「建学の精神」

高度化する現代社会の変化に常に即応し、創意工夫を重んじ、独立自尊の道を学び、開拓者精神を涵養することにより、各分野での活動を通じ、広く社会に貢献する人格の形成を重点とする。

「教育方針」

毎日の授業（講義、実習、実験）を重視する専門教科の修得を通じ、人格を陶冶する。工学・芸術・医療それぞれの分野における開拓者精神を培う。

「教育目的」

つねに新鮮なる人材の要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身につけ、職業人として自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を育成する。

育成人材像

2011年度より新たな取り組みとして、学生たちの就職力を高めるための「日本工学院就勝宣言」をスタートし、各分野の専門能力に加え、社会が求める人間力を養成できるカリキュラムを構築するとともに、学生の就職・デビュー活動を万全に支援するプログラムを豊富に用意し、これまで蓄積してきた人材育成教育をより強力にし、時代が求める「専門力」と「人間力」を併せもつ真のプロフェッショナルを育成する。

また、各自の能力ならびに特性に応じて基礎理論から応用技術に至るまで、最も効果的に教育し、あわせて社会人として必要な教養を身につけ、勤労と責任を重んじる、心身ともに健全なる技術者を育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「第一志望で選ばれる学校になる」ために以下の①～⑥の6項目に取り組む。

- ① 「若きつくりびと」教育の徹底（つくる、作る、造る、創る）
- ② One 日本工学院の推進（地域、学校、カレッジ、学科を超えたコラボレーション）
- ③ コミュニケーションの活性化（情報の外部への発信、内部での情報共有）
- ④ 教育設計図2.0による教育の質保証（カリキュラム、教育設計図、シラバス、学びの設計図等）
- ⑤ エンパワーメント型組織へ（学習する組織、心理的安全性の確保）
- ⑥ 学生中心主義（学生を知る、学生の意欲を引き出す）

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
4. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5. 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

- 社会的要請や業界動向に即した学科の再編（新設・統廃合・カリキュラム改訂）については、対応が遅れている状況にある。

②今後の改善方針

現在、各業界関係者との協議を重ねており、令和7年末までに一定の結論を導き出すべく検討を進めている。

③特記事項

- 各学科において、受験生に向けた「3つの約束」を策定し、学校案内書に掲載するとともに、オープンキャンパス等の機会においても積極的に提示・説明を行っている。
- グローバル時代に即応できる人材が求められる今日、本校では教育のさらなる質的向上を目指し、継続的な環境整備と教育改善に取り組んでいる。

2013年度には、最先端の研究・実習が可能な「先端3D製作室（メイカーズラボ）」および「スマートハウス実習棟」を建設し、実践的な技術教育の充実を図った。翌2014年度には、学生生活の満足度向上を目的として、コピー機・無料公衆無線LAN・デジタルサイネージ等を備えた自由利用スペース「ドーナツラウンジ」を整備した。

さらに、2020年度にはAI教育に特化した「AI実践センター」を新設し、次世代技術への対応力を育成する教育体制を強化。2021年度には、建築学科および建築設計科の新実習施設「アーキテクト・ビルダースタジオ」を設置し、専門性の高い実習環境を整えた。

これらの施設整備を通じて、教育の質と学生の学びの充実を両立させる環境づくりを推進している。

- 若きつくりびと

「理想的教育は理想的環境にあり」の理念に基づき、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとする日本工学院ならではの本格的な学習環境で、自由にモノ、コト、場、喜びなどを作る（創る）本校学生のことである。日本工学院ではすべての学科で「つくる」ことを教育の柱に据え、新しいモノやコトなどをつくり出せる人材「若きつくりびと」育成のため、75年の歴史が培ってきた人材育成のノウハウを生かし、理想の教育環境を実現するためのさまざまな取り組みを行なっている。

(2) 学校運営

評 価 項 目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3. 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4. 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5. 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

4. 教育職員の勤怠ルールについては、文書化を行い、全教職員研修会や部科課長会議等の場で繰り返し説明を実施してきた。その結果、残業を含むコンプライアンス（勤務ルール）の遵守意識が徐々に浸透しつつある。

②今後の改善方針

令和7年度より、勤怠管理システム「company」を導入し、より正確かつ厳格な勤怠管理体制を構築した。これにより、勤務状況の可視化と適正な労務管理が可能となった。

また、教育職員の人事評価制度として「目標管理シート」を新たに構築。学校全体の目標を起点に、カレッジ、学科、個人へと段階的に目標をブレイクダウンし、個人の目標達成が学校全体の成果につながる仕組みとした。面談は年2回実施し、進捗確認とフィードバックを行っている。

組織および個人の成長を促すため、PDCA サイクルを活用した運用を行っており、評価にはループバックも導入している。これにより、評価の透明性と納得性の向上を図っている。

なお、これらの取り組みはまだ改善の途上にあり、今後さらに制度の精度と運用の質を高め、より良い仕組みへと発展させていく必要がある。

③特記事項

- ・学校運営において不可欠である教育目的・教育目標の達成に向けて、単年度計画および中期計画を策定している。これらの計画は、年度初めに開催される合同部長会において、副校長より「学校の重点方針と課題（目標を含む）」として発表され、法人全体に周知されている。

この取り組みにより、全教職員が共通の目標意識を持ち、組織的かつ計画的に教育活動を推進する体制が整えられている。

- ・「高等教育の修学支援新制度」の認定校。

(3) 教育活動

評 価 項 目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等と連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実集等）が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する実施・評価体制はあるか	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質行動のための取組が行われているか	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

4. 令和6年度より、学科横断型のプロジェクト「Vision Craft」を推進している。

特許取得を視野に入れた革新的なモノづくりを学生主体で行う取り組みであり、創造性と専門性を融合させた本校ならではの教育活動である。学生の主体的な学びと実践力を育むとともに、学校の特色を内外に発信する象徴的なプロジェクトとして位置づけている。

7. 授業評価アンケートの項目を見直し、より実態に即した内容へと改定した。アンケートは学園ポータルサイト上で実施することで、教員および非常勤講師へのフィードバックが迅速化され、授業改善に直結する効果が得られている。

14. 蒲田校・八王子校の学科長およびカレッジ長を対象とした合同研修を実施している。

研修では、人事・経理・コミュニケーション等、学校運営に関わる重要テーマを取り上げ、実務的な理解と対応力の向上を図っている。

「蒲田・八王子合同」での実施により、両校間の情報共有や相互理解が促進され、さらなる連携強化につながっている。

②今後の改善方針

授業力向上をさらに促進するため、「模擬授業研修」や「優秀授業教員の表彰」など、異なる観点からの取り組みを導入し、教育の質の向上を図っていく。

また、継続的な合同研修を通じて、組織全体の一体感と運営力の向上を目指す。

(4) 学修成果

評 価 項 目	評価
1. 就職率の向上がはかられているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	4
4. 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

5. 日本工学院八王子専門学校の卒業生組織である校友会は、規定等に基づき組織としての体制は確立されているものの、会員数が多く巨大な組織であるがゆえに、会員一人ひとりへのサービスの充実には課題が残されている。また、校友会の活動自体も形骸化しつつあり、卒業生と在校生双方にとって有益な組織へと再構築する必要がある。

②今後の改善方針

現在、校友会会長と連携しながら、校友会のあり方について検討を進めており、近日中に教職員向けの研修を実施する予定である。まずは教職員に対して校友会の目的や取り組み内容を周知し、理解を深めてもらう。そのうえで、「つなぐ」をテーマに掲げ、卒業生と学校、そして在校生を結びつける新たな校友会の姿を構築していきたい。

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6. 学生の生活環境への支援は行われているか	4
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

6. 近年、特に非漢字圏からの留学生の増加に伴い、日本語講座や留学生向け就職支援、国際交流サロンなど、既存の支援施策の見直しが求められている。これらの支援は、留学生の学習・生活・進路における課題解決に一定の効果を上げているが、さらなる充実と質の向上が必要である。
同時に、留学生比率の上昇に伴い、日本人学生への配慮や学内の多文化共生環境の整備も重要な課題となっている。

②今後の改善方針

留学生と日本人学生双方にとって学びやすく、交流しやすい環境づくりを推進し、支援体制の再構築を図っていく。

③特記事項

3. これまで入学予定者を対象として実施していた「若きつくりびと奨学金」に加え、令和6年度より在校生を対象とした「若きつくりびと育成奨学金」を新たに導入した。高い教育成果を収めた学生に対し、1名あたり10万円を給付するものであり、学生の学びと成果を称える制度として位置づけている。
- 表彰は合同卒業展にて「校長賞」として実施し、学校全体で学生の努力と成果を讃える機会としている。給付対象者には、成果や学びの過程をまとめたレポートを作成してもらい、母校への報告とすることで、後輩への刺激や教育活動への還元にもつなげている。

(6) 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
2. 学内外の実施施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

③特記事項

- ・2025年7月22日、本校の防火設備よりPFOSを含む泡消火剤が一部流出する事案が発生した。なお、同年3月に実施した定期設備点検では異常は確認されておらず、突発的な事象と考えられる。
今回の事案を教訓とし、今後はより厳格な設備管理体制の構築など、再発防止に向けた取り組みを強化していく必要がある。
- ・建築学科(四年制)および建築設計科の新実習施設「アーキテクトビルダー・スタジオ(AB Studio)」が完成。建築系学科のエグゼクティブアドバイザーを務める建築家 渡辺真理氏監修のもと、学生の創作意欲を高める2つの実習スタジオ(A・B)のほか、学生作品展示コーナーや建築関連の書籍を豊富に揃えた書棚も完備。次世代の建築デザイン教育を見据えた、理想的な学習環境となっている。
- ・遠隔授業に対する学内のインフラ整備はgoogle社Gスイートが運用開始から4年目を迎え、学内でも浸透が進み今後さらなる活用が期待される。教職員間の情報共有と業務効率の向上を目的として2023年10月より有償版のSlackも新規導入した。
- ・学内Wi-Fi環境の整備については、半導体供給不足、ウクライナ戦争の影響により整備が遅れていたが、2023年度4月にキャンパス授業教室内のWi-Fi化が完了した。
- ・2022年5月より新たに日本工学院八王子専門学校(八王子校)の専用サイトである、Link 日本工学院(<https://link-hac.neec.ac.jp/login>)を開設し、学生、保護者にタイムリーに学園情報(掲示板、カレンダー)を伝達する専用サイトを開設した。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	評価
1. 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。	4
2. 学生募集活動は、適正に行われているか。	4
3. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	4
4. 学生納付金は妥当なものとなっているか。	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

1. 本校が取り組んでいる教育活動や成果について、受験生への効果的な情報発信が十分に行き届いていない状況が課題となっている。特に SNS の活用においては、戦略面での課題があり、発信内容やタイミング、媒体選定などの面で改善の余地がある。

②今後の改善方針

外部有識者の意見も取り入れながら、広報戦略の見直しを進めており、受験生や保護者に対して本校の魅力を的確に伝えられる体制の構築を目指している。また、公式ホームページについても、情報の整理とデザインの刷新を含めたりリニューアルを予定しており、今後の広報活動の中核として位置づけていく。

③特記事項

- ・入学辞退者に関する授業料等の取扱いについては、文部科学省通知「18 文科高第 536 号」に準じ適切に対応している。
- ・片柳学園給付型奨学金を若きつくりびと奨学金へ名称変更（内容等は変更なし）。
- ・本校は厚生労働省の実施する「教育訓練給付制度」（専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金）について、7 学科 8 講座において指定を受けている。これは、一定期間以上 雇用保険の被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する講座を受講し修了した場合、収めた 授業料等の一部が支給される制度であり、社会人の再チャレンジの選択肢として支援の体制を整えている。
- ・オンラインを活用した入学試験を導入して受験生の負担軽減に努めている。
具体的にはオンラインエントリー（総合型選抜入試）、オンライン面接（総合型選抜、学校推薦型、一般選抜）を導入。遠方居住者の交通費や体調不良者のオンライン面接切り替えなど受験生への負担を軽減している。
- ・2025 年度にはオンライン出願を導入した。

(8) 財務

評 価 項 目	評価
1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3. 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

②特記事項

3. 令和 6 年度、法人内に「内部監査室」を新設し、監査を実施した。監査では、各部門の業務内容の洗い出しや、職員への第三者ヒアリングを通じて、業務運営の実態把握と課題抽出を行った。
その結果、組織運営上の問題点や改善すべき事項が明らかとなり、これらの内容は管理職間で共有された。今後は、監査結果をもとに具体的な改善策を講じ、業務の透明性と効率性の向上を図っていく。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

②特記事項

3. 令和8年4月より、学校教育法の改正に伴い、専門学校においても単位制の導入が義務付けられることとなった。本校ではこの制度改正を契機として、総合専門学校としての強みを最大限に活かした新たな学校づくりを検討している。

複数分野にわたる学科構成や学科間の連携を活かし、柔軟かつ実践的な単位設計を行うことで、学生一人ひとりの学びの多様性と専門性を高める教育体制の構築を目指している。

- ・「学校法人片柳学園における個人情報の保護に関する規程」(2005年3月1日施行)
- ・「学校法人片柳学園 ハラスメントの防止等に関する規定」(2022年8月1日施行)
- ・現在ホームページ、ブログ、Facebook、LINEについては「インターネットメディアガイドライン」により適切に管理されている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

②特記事項

- ・ミュージックカレッジ、スポーツ・医療カレッジを中心に「部活支援」を実施
- ・国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成活動として、毎年8月に「こどもチャンレンジ体験&発見教室」を実施（令和7年度は実施できず）<https://ict-enews.net/2024/08/05nec-2/>
- ・八王子市との包括連携協定に基づく連携の充実
- ・八王子市伝統「八王子まつり」「踊れ！西八夏まつり」公式ポスターデザイン協力、ボランティア参加。
- ・特別講義シリーズ「八王子学～ものづくりの道～」を開講
- ・検定試験会場や地域イベント、テレビドラマ、CM撮影などキャンパスの施設貸出
- ・地域活性化イベントにオフィシャルサポートスタッフとして参加
- ・八王子市私立保育園協会連携校
- ・地域の小学校にてスポーツ指導
- ・JPPF（NPO 法人日本パラ・パワーリフティング連盟）と連携のもと「第22回全日本パラ・パワーリフティング国際招待選手権大会」の開催協力

以上